

## 委員から事前に寄せられた意見

平成 30 年度

市川市市政戦略会議

## II. 業務効率の向上について

### ii 「いちかわ BASiCS」の運用

#### ◆阿部委員

ガイドブックはとても良くできたと思いますが、どのように定着させるかが今後の運用における課題だと思います。中小企業の社長だったら、毎日朝礼にガイドブック持参で、復唱させたりして、刷り込み教育をしたりするかもしれませんね。

#### ◆宇田川委員

- ・まず、アンケートの回答率が非常に低いのが残念です。BASiCS もボリュームが多く、アンケートも設問数が多いのが理由だと思いますが、アンケートの回収は非常に大事なもので回収率が低い時点で期限の延長や部長会議等で回答促進を依頼すべきではなかったか。
- ・管理職の64%がいちかわ BASiCS を活用する気持ちがあるというのは良い点です。また、管理職の80%以上の方は内容に対しても「参考になった」という方がいて良かったが、反面非管理職は活用する気持ちも、参考になったかどうかとも相当%が落ちるのが残念です。全般的に業務、ひいては市川市の職員であるという現状に対するモチベーションが非管理職では低いのではないか。
- ・上記のような現状を打破するためには、自由記述欄でも出ているように各種研修においてBASiCSの内容を刷り込んでいく必要があるのではないか。
- ・ただ全体的に自由記述欄でも多くの肯定的な意見をいただいているので、運用面で考える部分はあるものの、作成をしてこれを広めるということを精一杯注力して欲しいと思います。
- ・このアンケートからも業務の属人化、会議の時間制限、会議資料の事前配布、議事録作成、マニュアル・業務フローの作成に対して問題を抱えている現状をうかがい見ることができました。

#### ◆釜塚委員

職員の方々には、おおむね肯定的に受け止められていると思います。  
ただ業務時間内に読むことは難しいとのことですから、全職員に冊子として配布する場合は、項目を絞り負担を感じさせないことが必要かと思います。  
そして気持ちをそそられるようなイラストや写真（例えばバラとかレッサーパンダなど）を入れればよいと思います。  
研修には役立つと思います。管理職、非管理職、新人用と分け、具体例などを入れ、もっと詳しくてもよいと思います。

#### ◆坂爪委員

「いちかわ BASiCS」の位置づけと運用に、冒頭部分にあるこの文章とのつながりが書かれていると良いのでは（何をやるかとあわせて、なぜやるのかの部分があるとよい）。  
例えば業務効率を高めることが時間制約のある職員が増加したとしても職務遂行を可能にする。

- ① 1人の職員が担う業務の増加
- ② 40代、50代の職員比率の低下による管理職不足や技術・知識の継承等への支障
- ③ 子育て・介護等により時間制約がある職員の増加を補完する組織体制や制度の整備

#### ◆佐藤委員

「いちかわ BASiCS」は、アンケート結果を引用したり、コラムやイメージ図を各所に挿入するなど具体的で分かりやすく、押しつけがましさを感じさせない工夫がなされています。手に取って読んでもらうほど「いちかわ BASiCS」の良さや有用性が伝わると思います。どうしたら日々の業務のなかで自然に手に取ってもらえるのか、活用してもらう頻度をあげるためには具体的にどうしたらよいかについて、知恵を出し合ったらよいのではないかと思います。

#### ◆高橋委員

ガイドブックが本当に浸透するのだろうか。  
どのようにしたら全職員に浸透するかを検討する必要があると思います。

#### ◆田中委員

アンケートの自由記述を踏まえ意見を申し上げます。(気になった意見は以下のとおり)  
まず管理職では、「いちかわ BASiCS」を職員全員に周知させ、業務効率を上げたいと考えている。一方、非管理職ではどのように周知させるのか疑問や課題とする方が多いと感じる。目的とする効率化は同じように感じることから、今後は周知徹底・意識付けのスキームが非常に重要であり「いちかわ BASiCS」を共有するための方策を考える必要がある。  
また新規採用職員の教育の際に使用してはどうかとの意見の一方、求めるレベルが異なるのではないかと意見もある。更に、内容が管理職目線であったり、もしくは非管理職目線であったりすることから、「管理職用・非管理職用・新規採用職員用」と分けてもよいのではないかと考える。

#### ◆前原委員

以前も発言させて頂きましたが、読むだけの物でなく「ワークブック」のようなものになると活用しがいがあるのではと思います。(チェック項目を付けたり、TODO リスト的な表や自分の考えを記入する個所を設けたり等)

#### ◆松永委員

・いちかわ Basics が浸透するか否かは、最初の3~6か月が勝負の分かれ目と思います。  
いちかわ BASiCS を運用しなくても構わない雰囲気醸成されると、庁内の士気や文化を変えるチャンスは当分なくなるかもしれません。早期浸透のためには、以下の点が重要と思われます。  
・新市長に重要性をご理解頂いたうえで、いちかわ BASiCS を積極的に運用するように職員に働きかけてもらう。  
・部長会の場で承諾を頂き、市の幹部が積極的に先陣を切って運用する。  
・企画部がまず運用して、効率性の向上などの点でどのような成果があったか、庁内広報などを通じて積極的にアピールする。  
・企画部以外で積極的に運用して成果を挙げた部署を、BestPractices として庁内で取り上げる。人事考課面でもプラスの評価をする。  
・職員研修の際にプログラムの一つに、いちかわ BASiCS の運用を取り入れる。  
座学だけでなく、ワークショップで「どうしたら職場にいちかわ BASiCS を浸透できるか」をテーマに話し合う。  
・そうした前向きな雰囲気醸成を通じて、徐々に庁内の文化を粘り強く変えていく。

#### ◆松本委員

各部署にこのガイドブックを渡して終わり、ではなく、どこがどのようにフォローアップしていくか？ また、引き続き内容の妥当性を検証し、随時アップデートしていくか？ どのように活用されているか、評価指標等を設けて、チェックするのか？ 等が気になるところです。

## その他【答申の骨子に関すること】

### ◆釜掘委員

全般的な感想ですが、この答申は職員の方々の意向と離れたものではなく、受け入れやすいと思われます。

アンケートの回答を見ても、職員の方々がしっかりとした考えがあることが分かります。要はそれを活用すべきということです。

新しいアイデアとか改革とかというものは、現場の中から具体的に出てくるものでしょうから、職員の方々に頑張ってもらうのが一番です。それには制度だけではなく、自由にモノが言え、実行できる職場の雰囲気が必要だと思われます。